

第4回国土形成計画モニタリング手法研究会議事概要

1. 日時 平成20年2月7日(木) 16:00~18:00
2. 場所 合同庁舎2号館13階国土計画局会議室
3. 出席委員
清水座長、高松主査、吉原主査、岡本委員、谷口委員、中山委員、山崎委員、森野委員 (計8名)
4. 議事(概要)
 - (1) 開会
議事 新しい国土のモニタリングシステムについて
議事 モニタリングパイロットシステム(案)について
議事 その他
 - (2) 閉会
5. 主な発言内容
 - (1) 資料2の質問・議論等
 - ・ 戦略的目標のモニタリングに関して、集計の単位を知りたい。
全国で取得できるようなデータを利用したい。データを出すことによって混乱すると困るが、広域ブロックや県単位で示せるものは示していきたい。(事務局)
 - ・ 公表資料を使用しているので公開できるはず。データを出すことによって混乱するならグラフや図で示す方法を使えばよい。
 - (2) 資料3の質問・議論等
 - ・ 「格差」は東京での生活をベースに考えた格差であって、その地域の特徴を活かしたのではない。例えば、「自分の地域の特徴は生活であって、休日の過ごし方などが充実している」といった格差論もあるだろう。経済的指標だけでなく、余暇時間、物価なども考慮すべき。
 - ・ 経済企画庁も様々な指標を検討しており、我々も経済格差のみを扱うのではないというメッセージも必要だろうと思う。
 - ・ 賃金が安くても生活費が安く夢のある生活ができるなど、格差の背景にある生活の質はデータで表しづらい。
 - ・ 生活単位で見たブロックの定義を考えるべき。
 - ・ 目標の達成度を測る目的で、所得格差が使われている。地域の人が気になるのは、北海道や東北といったブロックの中での差であって、上位5県や下位5県といった概念は意味がない。ブロックの中で目標があって、その実現のために何をすると
いう意思決定ができるはずで、それに基づいた指標を考えるべき。
 - ・ 格差と掲げると是正すべき課題ととられやすい。データに差があることをもって格差というべきではないのではないか。

- ・パイロットシステムの体系とモニタリングの体系との対応関係が分からない。例えば、どれがアウトプットでどれがアウトカムに対応するのか。
インプット、アウトカム等は連続しており、政策の段階によって属性が変わる。プロセス評価の手法としてインプット等の概念を用いたが、一般向けの公開においては因果関係がイメージできる程度にとどめるつもりである。(事務局)
- ・「新たな公」の書き込み機能は、客観性をどのように確保するか。
客観性確保のために制限を先行すると投稿が抑制される。いずれ制限が必要となるが、まずはこれを使ってアピールしてくれ、ということで進めたい。(事務局)
- ・定期的更新がないと投稿から削除する、なども考えられる。
自治体の宣伝ページになってくれることも考えられる。(事務局)
- ・事務局に負担がかかると思うが、明らかに公でないと思われる宣伝、PR的なものは自動的に排除するというくらいを決めておくべき。
ある程度自由に書き込めないと発展性がない。ただし、明らかに不適切なもの、長期間更新されないものは削除する等、ルール作りは必要である。(事務局)
- ・書き込みの条件を決めて示す方が、削除後のトラブルは避けられると思う。
- ・電子国土でも事例集の書き込み機能があるので、参考にするとよい。パイロットシステムでは、手っ取り早いので民間の電子地図を使用としているが、本来であれば国土地理院の1/25000の地形図を使用すべき。
- ・「新たな公」に関する統計は、書き込み機能でデータをそろえるのか。
書き込み機能以外でも可能な限り現在進行形の事例を集めたい。(事務局)
- ・NPO以外の地域組織にも補助金ができるように、地域組織を生かすような方法を考えないと「新たな公」が広まっていけない。
- ・書き込みする組織は何を想定しているか。自治体か、NPOか、学生なども含むか。
特に限定せず、新たな公の活動をしていると思われる人が書き込んでくることを想定している。(事務局)
- ・自治体単独で行っている事業を書き込むのでは良くない。団体、個人等と共同でやっているものならばいいのだが。
- ・自治体からの書き込みもありとしておいていいのではないかと。自治体は、多様な主体の取組みの全体像を把握しており、まとめて紹介してくることもできる。また、事実関係の裏をとることも必要。一方で敷居を高くすることも問題である。
とりあえずは、書き込む主体はHPを持っている、又は、新聞に出たなどの別媒体でフィルターのかかったものを取り上げるなどの制限を設けるのが良い。
- ・こういったシステムを管理したいという「新たな公」もあるのではないかと。
- ・たしかに、運営してみたいという人はいると思う。
- ・「新たな公」の書き込み機能だけがクローズアップされるのには違和感がある。
- ・入口が2つあるサイトがあったほうが良い。1つ目は国土のモニタリングとしては自分で活動している地域作りの方から入る入口、もう一つは国土形成計画からみた入り口で分析できるもの。
- ・パイロットシステムはすぐに全面公開されるのか。一般に向けて公開されるのか。
残り1ヶ月なので、公開するとしても一般公開まではできないと考えている。最初は試行を促すことが必要かも知れない。それとは別に、資料では年代や国土形成計画に対する認知度等によるグループでの試行と、一般からのアクセスによる試行を併行して行うことを考えている。(事務局)

- せっかく公開するのに、例としてシームレスアジアでは国民の関心が低いと思われるので防災等のように国民が興味を引く項目を追加できるとよい。現在戦略1、2、5を扱っているので、各項目ごとに1事例を示すのがよいが。一つ程度であれば追加があってもよい。(事務局)
- 年代で分けるのは意味がないのではないか。
- 「新たな公」がNPO等に限定されているのはおかしい。例えば、個人タクシーが地域に一台あるだけで、病院へ運ぶ便を確保したと言えなくもない。コンビニ、宅配便、交通業界等も新たな公となりえるが、なかなか表面に出てこない。地域の実情にあったものの提示が課題。
- 地方からそういった事例をどんどん書いてもらうしかない。なかなか収集できない情報をこのサイトで拾い上げて、地域、分野で検索するのが主旨のひとつであろうから、自由な書き込みに任せるだけでなく、書き込みを促すことも必要。
- 公共でも営利でもない、幅広いものを「新たな公」としていたはず。分かりやすい指標としてNPOの数を上げただけであろうから、本来的には違うはず。書き込みも一つの指標となるのではないか。
- こんな考え方もあるのだ、という意味で例を貼り付けておく意味はあると思う。サイトへの書き込みを活用し指標として使えるならば、NPOの数だけで「新たな公」を測る、ということをしなくてもよくなる。例えば、この書き込みに補足される数がベンチマークになることも考えられる。(事務局)
- みんなの国土マップからいきなり新たな公が開くが、主旨は全国から紹介された情報を他の人に提供するという仕組みであり、紹介に過ぎず、いきなりこれだけ示すと誤解が生じるのではないか。
- シームレスアジアは産業競争力も重要だが、旅行客、ビジネス客から見た羽田、青森、秋田空港の利便性など、人の動きを反映した情報の表示があってもよいと思う。
- 身近な情報に拡大しすぎると膨大になるのではないか。
- 国土形成計画の目標に直接的に合致したものだけを示せばよい。
- 国土像のモニタリングは、国民から見た国土像との乖離があるのではないか。国幹道の形成過程や港湾整備過程や経済指標だけでなく、森林や水田の分布など、本来の意味での国土マップが必要と思う。
たしかに、政策の評価、達成度の見せ方に軸足をとられているので、それだけではなく、基礎情報も見られる形に作る必要がある。(事務局)
- 国土形成計画の成果が理解されるようになるまでに時間がかかる。それまでに基礎データをきちんと収集しておくことも必要。最近話題の食の安全、食料自給率にしても、耕作放棄地がどのように分布しているか、特に条件の悪いところに分布しているのではないかなど、基礎的なデータを分かりやすく正確に見れるようにしておくこと必要。
- パイロットシステム何をやろうとしていて、現在はここまで整備されていて、モニタリングシステムではここまでできるということが分かったほうがよい。
- モニタリングシステムのモニター制度を作ってはどうか。データを更新しなければ信用されなくなる。情報を更新したことをメールするようなシステムがあれば利用者の維持に繋がるのではないか。
- 国際間の指標があるとよい。
- 国民満足度調査等と同時に、公でも自己採点をすべき。

- ・ 満足度調査と将来像の調査は、どの程度の規模でやるのか。世論調査では、属性別として都市の規模別ぐらいでの集計しかないが、地域的な差が分かるようサンプル数を増やすとよい。
- ・ 内閣府の世論調査もリンク集に加えてほしい。リンクは、リンク先を見なくてもリンク先で何がわかるのかの簡単な説明をつけるべき。
中見出しのような概要を付けてみたい。基本的なデータについては、分かりやすいリンク集を作ろうと考えている。(事務局)
- ・ 我が国の道路状況など意外に出ていないものがある。人口ピラミッドを比べる、古い航空写真と現在の航空写真を見比べてどうかなど、問いかけがあるような資料があるといい。また、海外のサイトでも有効なものも多く、英語版であったとしても誘導の部分を少し作ればかなり活用できるだろう。
- ・ ここから30分で行ける範囲など、地図で表示できないか。
- ・ 国土交通省の委員会の資料に、いいものが数多くある。それを投稿してもらっただけでもいい。現在では、サイトのどこかにあるのだが探し出せない、という状況である。
- ・ ファイルの名前の付け方などにも工夫は必要。
- ・ 次回が最終回なのでこれをやってほしい、という意見があれば伺いたい。
- ・ 基本統計だけを示すのか、推計も提示するか検討してほしい。
- ・ 例えば、京都議定書CO₂排出量削減について、地域ブロックごとのCO₂排出量がどうなっていくのか3年ごとぐらいで示すとよい。国民参加を促すなら、既存の統計データだけでなく、それらを用いて作業して推計した結果も示すとよい。
- ・ CO₂の排出量については、本当かと疑うようなデータもあるので、使う際には注意が必要。
- ・ 県民所得も国民所得と結果が違うといった問題もある。
- ・ 例えば、トヨタの物流コストを抑えるために海外まで分散して清算を行っているが、あれは「シームレスアジア」の概念に含まれるのか。
従来、国内で分散されていたものが海外にまで広まっており、そうした企業活動も含んだ「シームレスアジア」という概念になっている。(事務局)
- ・ 次回は最後なので、この研究会の中でどこまで整理、議論されて、合意したもの、宿題となったものがどれで、こういった目標を提示した、それらを含め最終報告案がこうなっているという整理をしてほしい。
- ・ 各委員から、こういうものを報告書に書き残してほしい、というものを出させるとよい。
3月末までの完成は困難なので、次回の委員会を最終回として原案を議論し、完成したレポートを後日郵送させて頂きたい。(事務局)
- ・ 各委員は、次回、これだけは提言に入れてほしいとう内容を示してほしい。

以上

(速報のため、事後修正の可能性あります。)